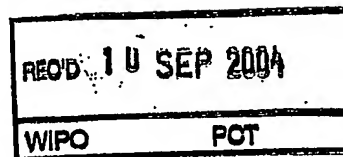


特 許 協 力 条 約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第12条、法施行規則第56条）
〔PCT36条及びPCT規則70〕



出願人又は代理人 の書類記号 H1901-01	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JPO3/12863	国際出願日 (日.月.年) 08.10.2003	優先日 (日.月.年) 10.10.2002
国際特許分類 (IPC) Int.Cl ⁷ C08J3/20, C08L101/00, C08K3/00		
出願人 (氏名又は名称) f A. M株式会社		

- この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。
- この報告には次の附属物件も添付されている。
 - ☒ 附属書類は全部で 3 ページである。
 - ☒ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）
 - ☐ 第I欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
 - ☐ 電子媒体は全部で _____ (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。（実施細則第802号参照）

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 国際予備審査報告の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 08.03.2004	国際予備審査報告を作成した日 20.08.2004	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 吉澤 英一	4 J 9543
電話番号 03-3581-1101 内線 3455		

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2004年1月)

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

- ☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。
- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
- ☐ PCT規則12.4にいう国際公開
- ☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

- ☐ 出願時の国際出願書類
- ☒ 明細書
第 _____ 1-24 _____ ページ、 出願時に提出されたもの
第 _____ _____ ページ*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ _____ ページ*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
- ☒ 請求の範囲
第 _____ 3-38 _____ 項、 出願時に提出されたもの
第 _____ _____ 項*、 PCT19条の規定に基づき補正されたもの
第 _____ 1, 2, 39-43 _____ 項*、 10.06.2004 付けて国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ _____ 項*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
- ☒ 図面
第 _____ 1, 2 _____ ページ/図、 出願時に提出されたもの
第 _____ _____ ページ/図*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
第 _____ _____ ページ/図*、 _____ 付けて国際予備審査機関が受理したもの
- ☐ 配列表又は関連するテーブル
配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
- ☐ 請求の範囲 第 _____ 項
- ☐ 図面 第 _____ ページ/図
- ☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
- ☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
- ☐ 請求の範囲 第 _____ 項
- ☐ 図面 第 _____ ページ/図
- ☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
- ☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)

請求の範囲

1-43

有

請求の範囲

無

進歩性 (IS)

請求の範囲

1-43

有

請求の範囲

無

産業上の利用可能性 (IA)

請求の範囲

1-43

有

請求の範囲

無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

・ 請求の範囲1-43

請求の範囲1-43に記載された発明において、「熱可塑性樹脂の軟化温度より低い温度で前記混練工程に移行し混練する」点については、国際調査報告で示されたいずれの文献にも記載されておらず、またこの点が当業者にとり自明なものでもない。

請 求 の 範 囲

1. (補正後) 熱可塑性樹脂と添加剤とを加熱混練する混練工程を含む樹脂組成物の製造方法であって、前記混練工程に先立ち、前記熱可
5 塑性樹脂と添加剤とを予備加熱して混合する予備工程をさらに含み、この予備工程で得られた混合物を、前記予備工程終了時の温度を保って、前記熱可塑性樹脂の軟化温度より低い温度で前記混練工程に移行し混練する製造方法。

2. (補正後) 熱可塑性樹脂と添加剤とを加熱混練する混練工程を含む樹脂組成物の製造方法であって、前記混練工程に先立ち、前記熱可
10 塑性樹脂と添加剤とを予備加熱して混合する予備工程をさらに含み、この予備工程で得られた混合物を、前記予備工程終了時の温度よりも温度を下げ、前記熱可塑性樹脂の軟化温度より温度の低い加熱状態で前記混練工程に移行し混練する製造方法。

15 3. 前記予備工程終了時の前記混合物の温度をX(℃)とし、前記混練工程移行時の前記混合物の温度をY(℃)とした場合に、下記式(I)の条件を満たす請求の範囲1または2に記載の製造方法。

$$0 \leq (X - Y) \leq 100 \quad (I)$$

20

4. 前記予備工程における加熱温度が100～250℃の範囲である請求の範囲1または2に記載の製造方法。

5. 前記混練工程移行時の前記混合物の温度が30～200℃の範囲である請求の範囲1または2に記載の製造方法。

25 6. 前記混練工程における温度が80～350℃の範囲である請求の範囲1または2に記載の製造方法。

7. 前記添加剤が、無機難燃剤を含む請求の範囲 1 または 2 に記載の製造方法。

39. (追加) 前記予備工程における攪拌速度が、400～1000 rpmの範囲である請求の範囲1または2に記載の製造方法。

40. (追加) 前記添加剤が、粒子状の添加剤である請求の範囲1または2に記載の製造方法。

5 41. (追加) 前記予備工程で得られた混合物が、前記熱可塑性樹脂の薄膜と前記添加剤との均一な混合物である請求の範囲1または2に記載の製造方法。

42. (追加) 前記予備工程開始時の前記熱可塑性樹脂がペレット状であり、前記予備工程において前記ペレットを加熱により薄膜状に形成する請求の範囲41に記載の製造方法。
10

43. (追加) 前記予備工程で得られた混合物が、前記熱可塑性樹脂の粉末と前記添加剤との均一な混合物である請求の範囲1または2に記載の製造方法。